

橋点検ロボット開発

長大など 安全、時間を大幅短縮

長崎大と建設コンサルタ

ント会社などが橋のケーブ

ルの点検ロボット「ヴェス

ピナエ」を開発し、ロボッ

トを使って点検が行われて

いる長崎市の女神大橋で19

日、報道関係者に作業が公

開された。ロボットは総重量約7

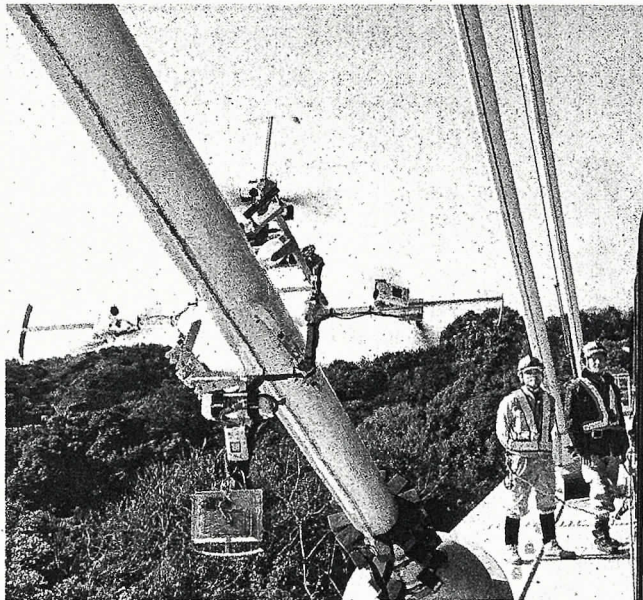
ピ。モーターでプロペラを

回し、その推進力でケーブ

ルを伝って動く。搭載した

ビデオカメラで表面を全方

位から撮影し、損傷や汚れ



橋のケーブルを点検できるロボット「ヴェスピナエ」

を記録。作業員は地上のモニタに配信された映像を見て、ケーブルの状況解析できる。

建設コンサルタント会社「長大」（東京）の呼びかけに応じ、長崎大などが約1年かけて開発。国土交通省は5年に1回、橋を近くから目視で点検するよう義務づけているが、高所作業車では高さ30メートルまでしか届かず、それより高い場所には作業員が主塔からロープで下りて点検するしかなかった。

同社の担当者は「ロボットの開発によって、数か月かかっていた点検を1〜2週間程度に短縮できる。さらに改善し、橋の安全確保や長寿命化に貢献したい」としている。

事件事故

▼長崎で住宅全焼 18日午後5時20分頃、長崎市立岩町、片山義和さん(81)方から出火、木